

令和3年度 第4回 九州地方整備局 事業評価監視委員会

国道201号

かわら 香春拡幅

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 目的・事業概要・これまでの経緯

- ◆目的 ・香春拡幅は、国道201号の交通混雑の緩和や交通安全性の向上、物流の効率化による地域産業の支援等を目的とした事業。

- ◆事業概要 ・本事業は、完成4車線の現道拡幅事業。

計画延長	2.1km (第3種第1級, 設計速度80km/h)
幅員	23.25m(4車線)
計画交通量(R12)	①34,200台/日, ②29,500台/日

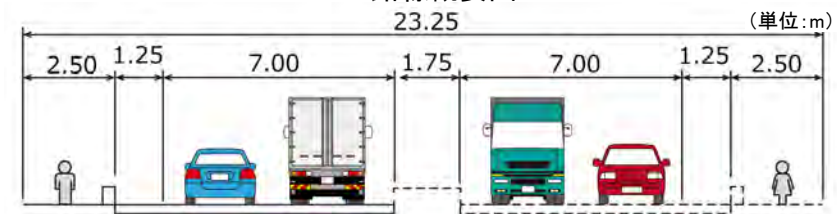
▼ 事業経緯

平成20年度	事業化
平成21年度	路線測量
平成22年度	地質調査、道路設計
平成23年度	用地幅杭設置
平成24年度	用地買収着手
平成28年度	工事着手

※事業進捗率:約48%、用地進捗率:100%



▲ 路線概要図



＜開通済＞

▲ 標準断面図

＜事業中＞

○平成20年度に事業化し、平成28年度から工事に着手、令和2年度には用地買収が完了。

写真②

至 飯塚市

R3年11月時点

至 行橋市

2

2. 事業の進捗状況(※前回以降の状況)

◆平成29年度以降の事業進捗状況

○現在、橋梁及び改良工事を推進中。



▲ 鏡山跨線橋の施工状況



▲ 新朝倉橋下部工の状況



▲ 鏡山東交差点付近

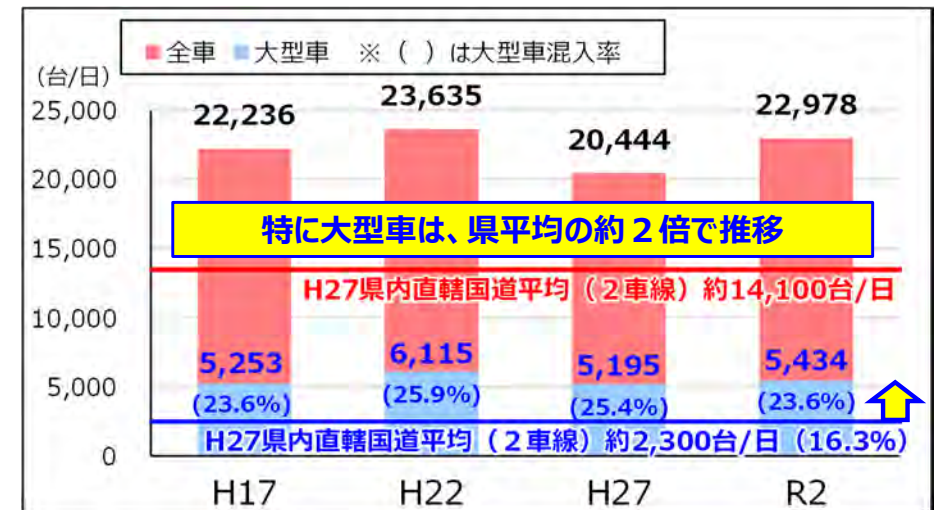
3. 事業の効果・必要性(基幹産業を支える物流道路)

- 国道201号は、沿線に関連企業が多く立地し、北部九州における自動車産業のサプライチェーン(部品調達、製造、販売など)を支える重要な物流道路としての機能を担っている。
- 北部九州の自動車産業においては、国内シェア20%を目指すなどの目標があり、基幹産業を支える物流機能の強化に向け、国道201号の整備は不可欠である。
- また、国際競争力強化に向け、空港・港湾機能の拡充や物流施設の新設などが相次ぎ予定されており、物流道路としての重要性が増していることから、交通ボトルネックとなる脆弱な2車線区間の整備促進が望まれる。



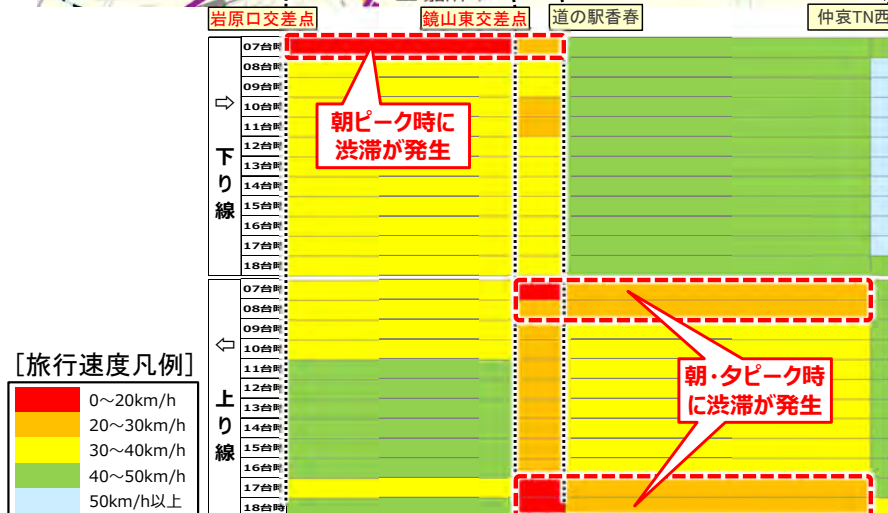
3. 事業の効果・必要性(交通混雑の緩和)

- 香春拡幅区間では、県内平均(2車線)を上回る交通量で推移しており、交通混雑が発生している。
- 令和2年7月に国道322号香春大任バイパスが開通したことで、更に交通が集中し、朝・夕ピーク時を中心に渋滞が顕著になるなど、広域的な物流道路の中で当該区間がボトルネックとなっている。
- 香春拡幅の整備により、交通混雑が緩和され、走行性の向上が期待される。



▲国道201号鏡山付近の交通量

資料：H17・H22・H27(全国道路・街路交通情勢調査)、R2(R02.11.18調査結果)



▲国道201号の速度状況変化

資料：ETC2.0プローブデータ(R2.8~R3.3:平日)



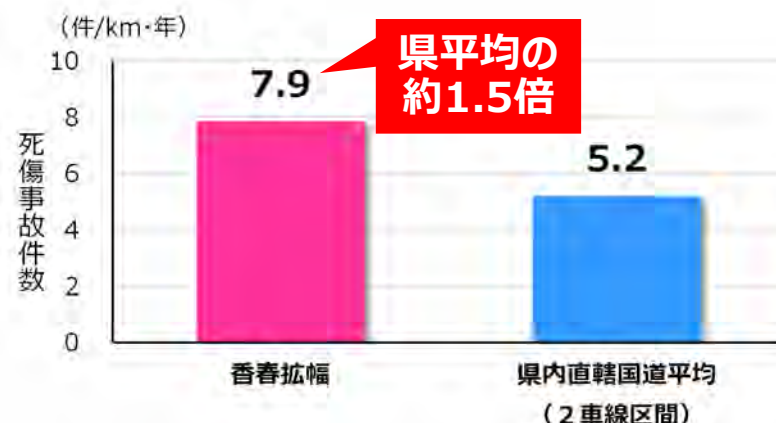
▲交通状況(鏡山東 下り線 朝)



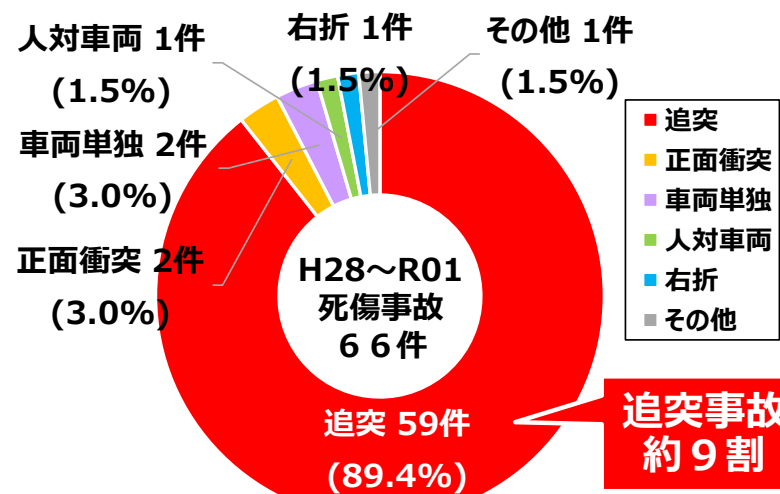
▲交通状況(鏡山東 上り線 夕)

3. 事業の効果・必要性(交通安全性の向上)

- 交通混雑が発生している香春拡幅区間においては、死傷事故件数が県内直轄国道平均(2車線区間)の約1.5倍と高く、特に追突事故が全体の約9割を占める。
- 香春拡幅の整備により、交通混雑が緩和され、交通安全性の向上が期待される。



▲ 1kmあたりの死傷事故件数
資料：交通事故総合データベース (H28～R01の4年平均)



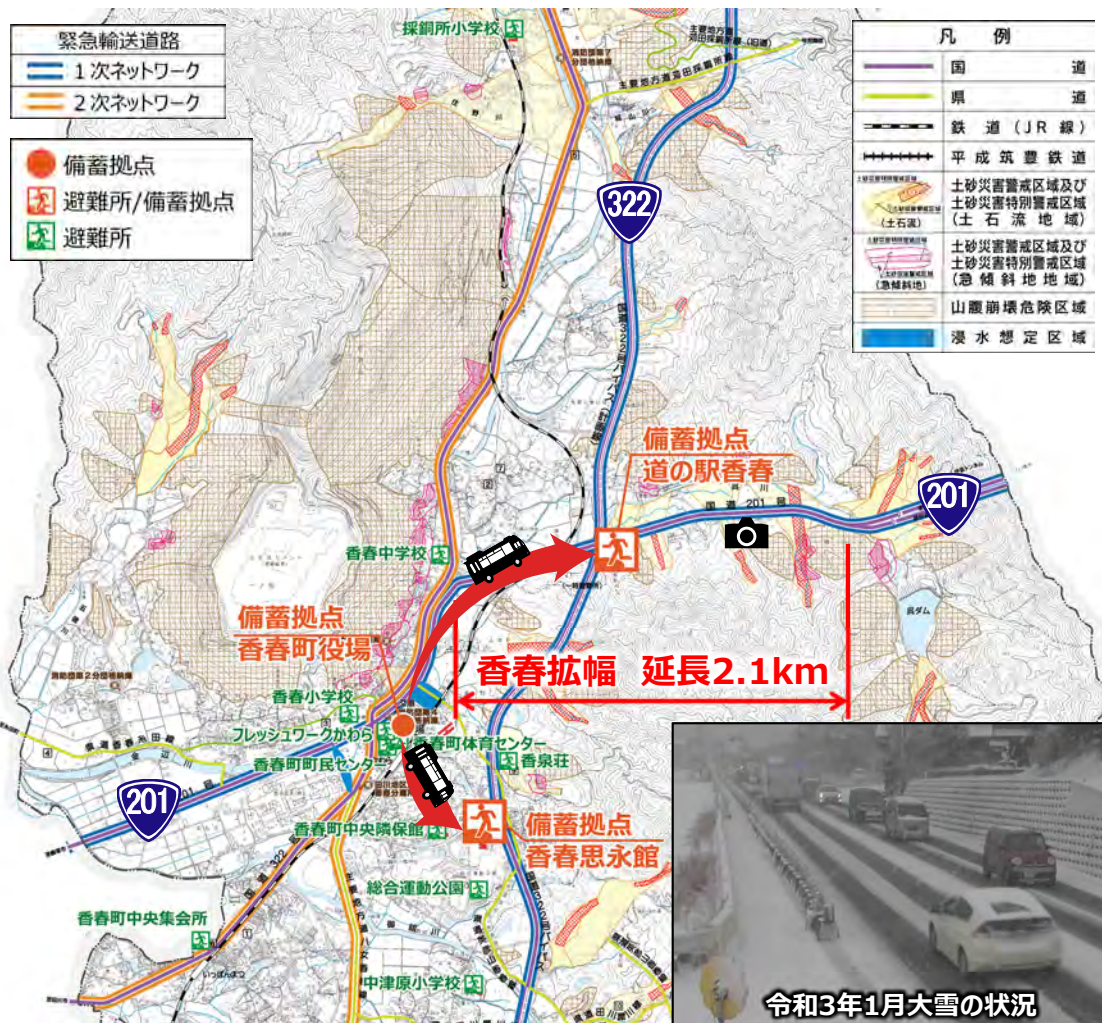
▲ 香春拡幅区間の事故類型

資料：交通事故総合データベース (H28～R01)



3. 事業の効果・必要性(災害に強い道路ネットワークの構築)

- 香春拡幅区間は、香春町内の救援物資を輸送する上で、役場と備蓄拠点(道の駅香春)を結ぶなど地域防災上、重要な区間である。
- また、当該区間は、比較的平地だが山々に囲まれていることから、積雪に見舞われることがあり、雪による立ち往生車両が発生した場合は、対面交通のため交通が遮断されることとなる。
- 香春拡幅の整備により、救援物資等の円滑な輸送や緊急車両等の早期到着が可能となるなど、災害に強い道路ネットワークの構築が期待される。



▼救援物資輸送(香春町)

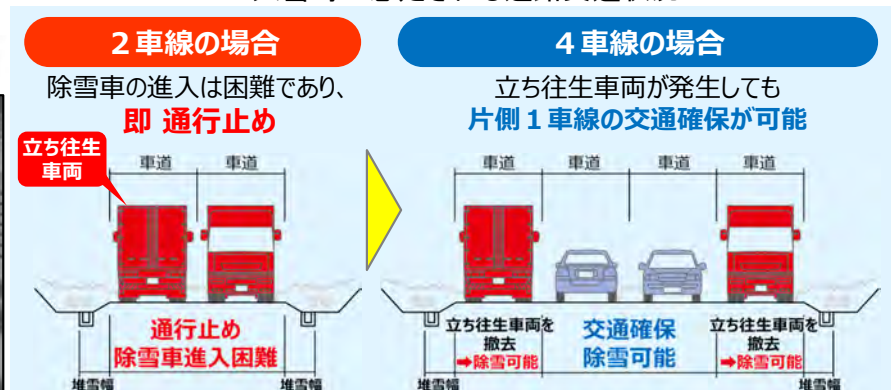


国道201号は、役場～道の駅「香春」を結ぶ重要な道路。2車線では混雑等で物資輸送の遅延が懸念されることから、有事への備えから早急な4車線化を望む。

資料：香春町ヒアリング (R3.10)

香春町

▼大雪時に想定される道路交通状況



4. 事業の進捗状況(事業費の見直し) 1/8

■事業箇所の概要

起終点

ふくおか たがわ かわらまちおおあざかがみやま
福岡県田川郡香春町大字鏡山
ふくおか たがわ かわらまちおおあざかがみやま
～福岡県田川郡香春町大字鏡山

延長

2.1km

全体事業費

61億円

⇒ 101億円に変更(+約40億円)

■位置図



■全体事業費の増額理由

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| ① 地質調査結果等に伴う盛土部計画及び仮設計画の見直し | : +約 10億円 |
| ② 渡河橋部及び跨線橋部の橋梁計画及び仮設計画の見直し | : +約 30億円 |
| ③ 仮設土留工の施工工法の見直しによるコスト縮減 | : -約0.3億円 |

合計 : +約 40億円

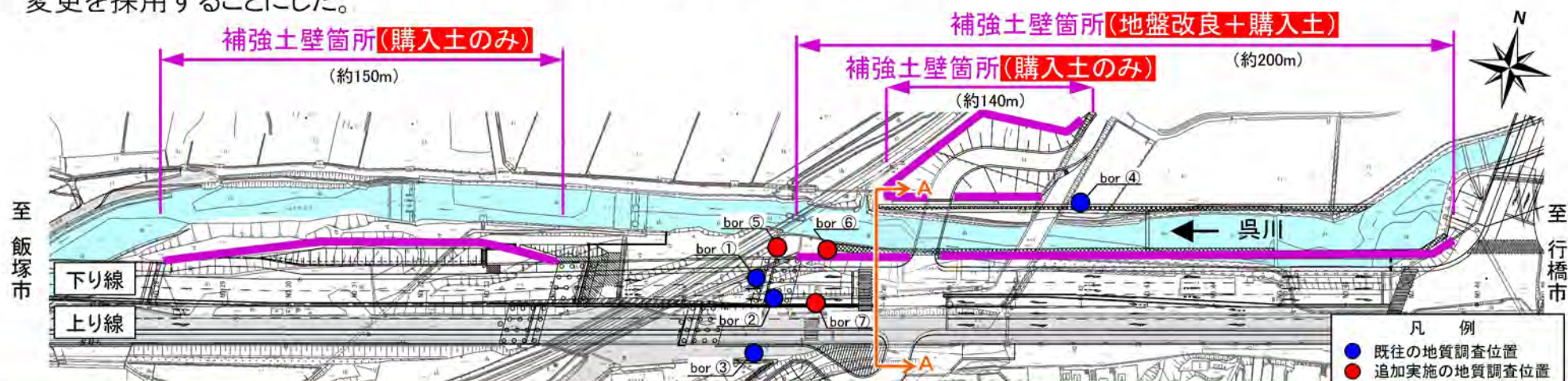
4. 事業の進捗状況(事業費の見直し) 2/8

【前回評価時：約61億円→今回評価時：約101億円（事業費増額：+40億円）】

①地質調査結果等に伴う盛土部計画及び仮設計画の見直し

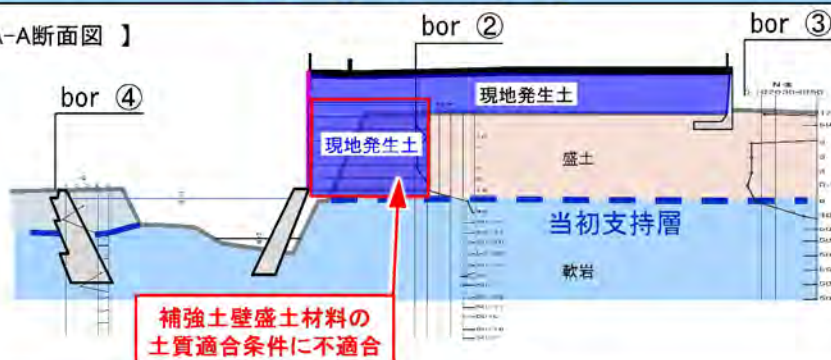
①-1 地質調査結果等に伴う地盤改良の追加及び盛土材料の変更に伴う増【+約7億円】

- ・当初、近傍の地質調査の結果に基づき補強土壁の設計を行っていた。用地買収の進捗に伴い、追加の地質調査を実施した結果、当初想定より支持層が深くなっていたため、基礎部の地盤改良を追加する必要が生じた。
- ・また、補強土壁の盛土材料については、当初、現地発生土や他事業からの発生土を流用する予定であった。施工にあたり、土質試験を実施したところ、細粒分含有率が29%であり、盛土材料の土質適合条件の25%以下に適合せず、補強材の敷設範囲が見直しとなることが判明した。そのため、盛土材料変更も含めた比較検討を実施し、経済性に優れる盛土材料の購入土への変更を採用することにした。



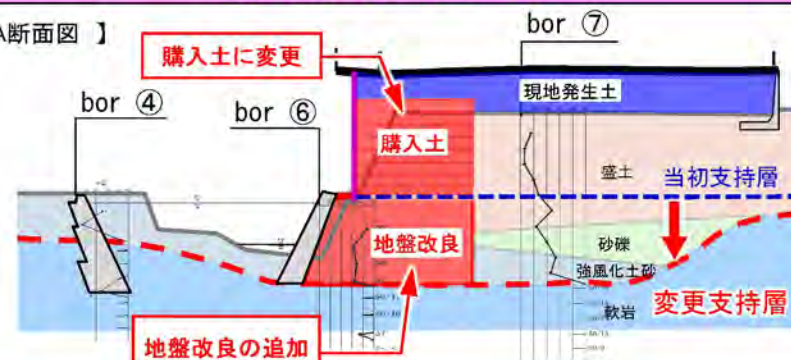
当初計画時

【A-A断面図】



変更計画時

【A-A断面図】

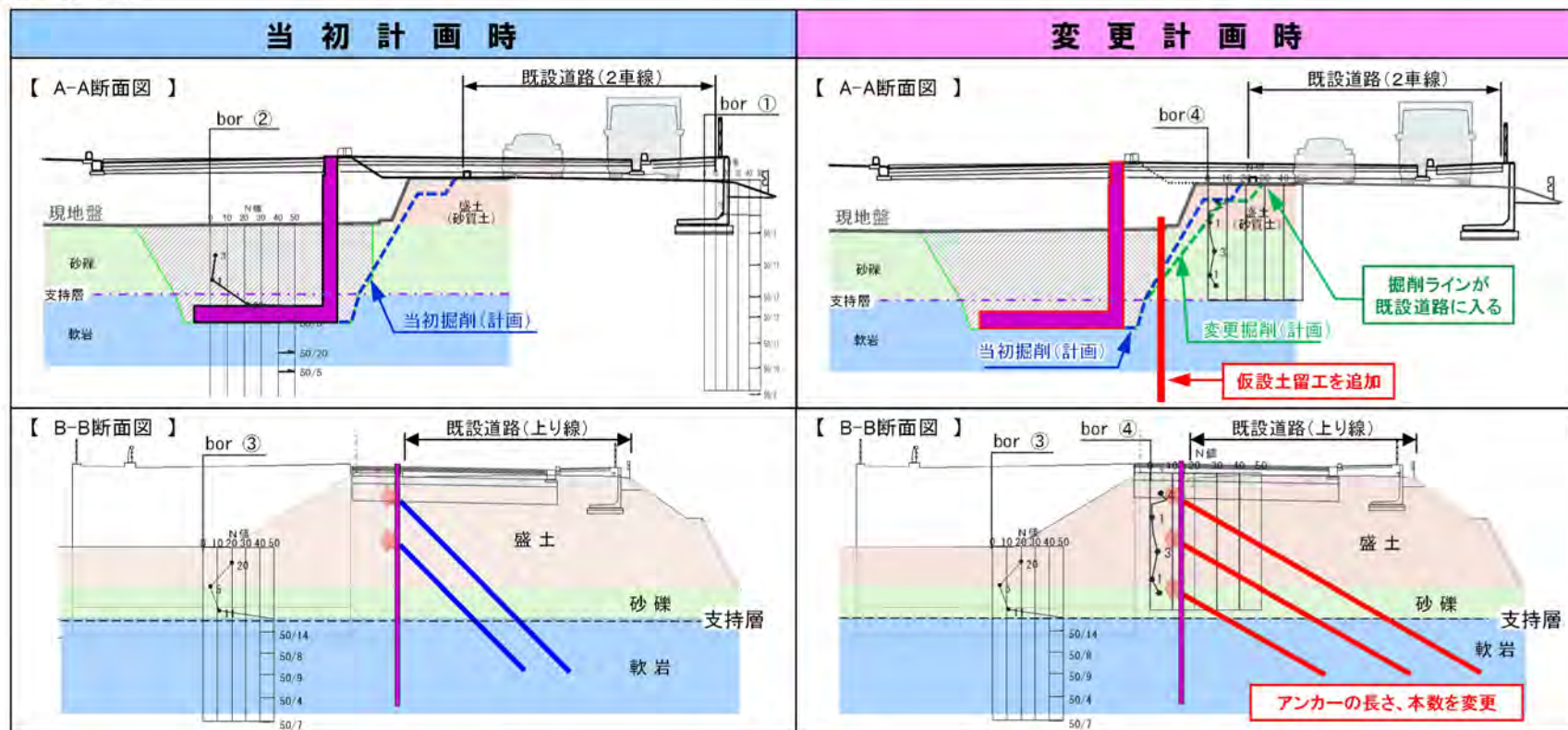
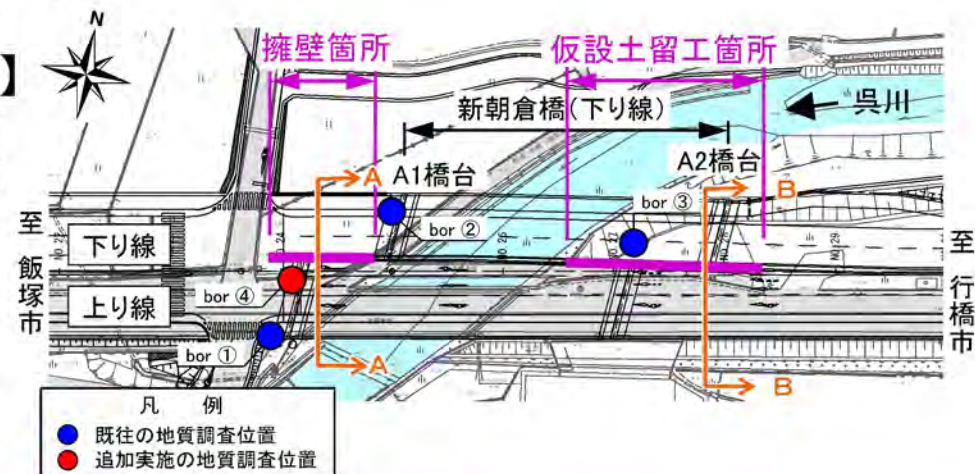


4. 事業の進捗状況(事業費の見直し) 3/8

①地質調査結果等に伴う盛土部計画及び仮設計画の見直し

①-2 地質調査結果に伴う仮設土留工の追加及び アンカー長・本数の変更に伴う増【+約3億円】

- ・当初、近傍の地質調査の結果に基づき新朝倉橋(下り線)のA1橋台背面付近の擁壁の施工はオープン掘削を予定していた。追加の地質調査を実施した結果、既設道路が緩い状況(N値(平均)=2)であり、オープン掘削では既設道路に影響することが判明したため、仮設土留工を追加する必要性が生じた。
- ・また、既設道路が緩い状況であったことから、盛土部の地盤(摩擦・変形)抵抗力が小さいことが判明し、A2橋台施工のための仮設土留工の安定検討を再度実施した結果、アンカーの長さ及び本数を変更する必要性が生じた。

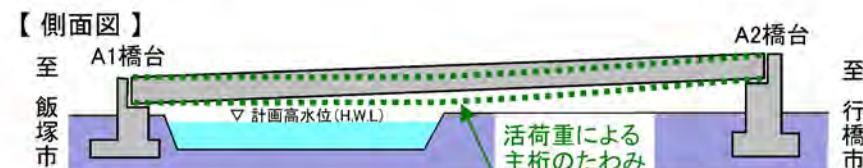
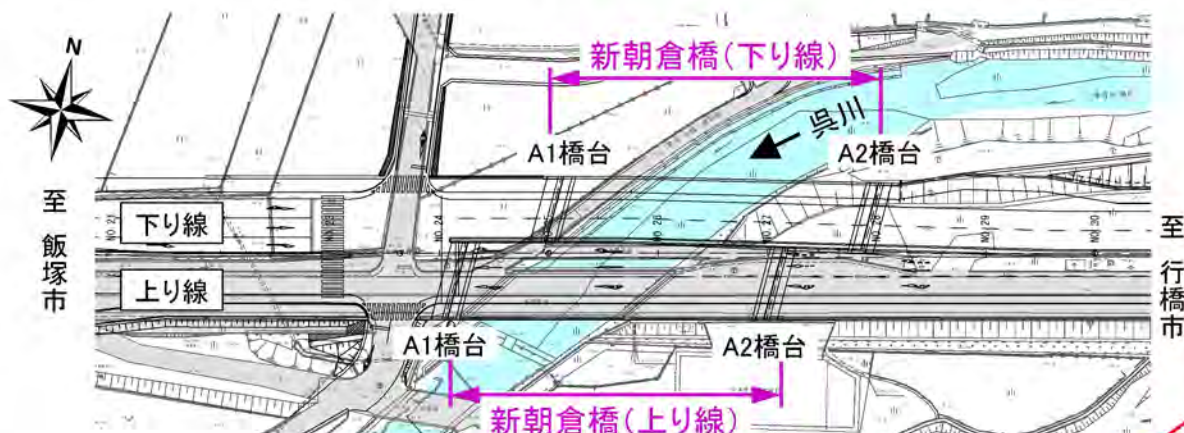


4. 事業の進捗状況(事業費の見直し) 4/8

② 渡河橋部及び跨線橋部の橋梁計画及び仮設計画の見直し

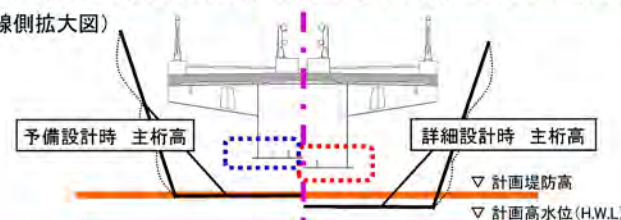
②-1 渡河橋部の橋梁計画の見直しに伴う増【+約9億円】

・新朝倉橋(上り線・下り線)について、予備設計時において河川管理者との協議等を踏まえ、橋梁形式は鋼単純箱桁橋を計画していた。詳細設計時に主桁のたわみ照査を実施した結果、予備設計時の橋梁形式では活荷重による主桁のたわみ量が予備設計時より大きく主桁高の変更が必要となり、河川断面に影響することが判明したため、橋梁形式を河川断面に影響がない鋼単純鋼床版箱桁橋に変更する必要が生じた。

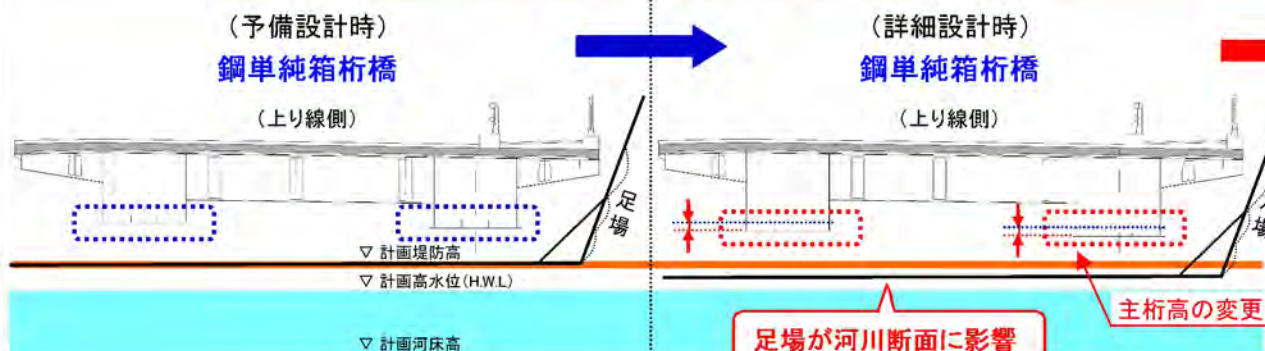


【予備設計時の橋梁形式での予備設計と詳細設計の主桁高の比較】

(上り線側拡大図)



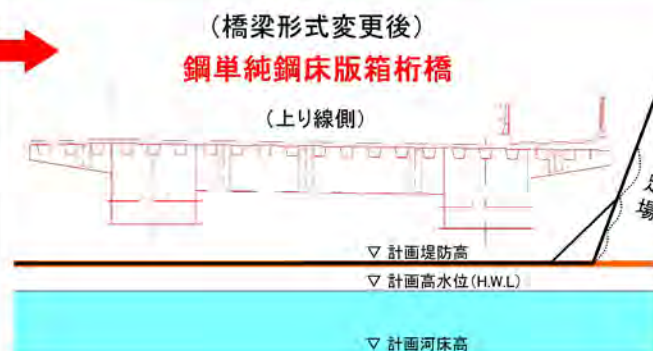
当初計画時



足場が河川断面に影響

主桁高の変更

変更計画時

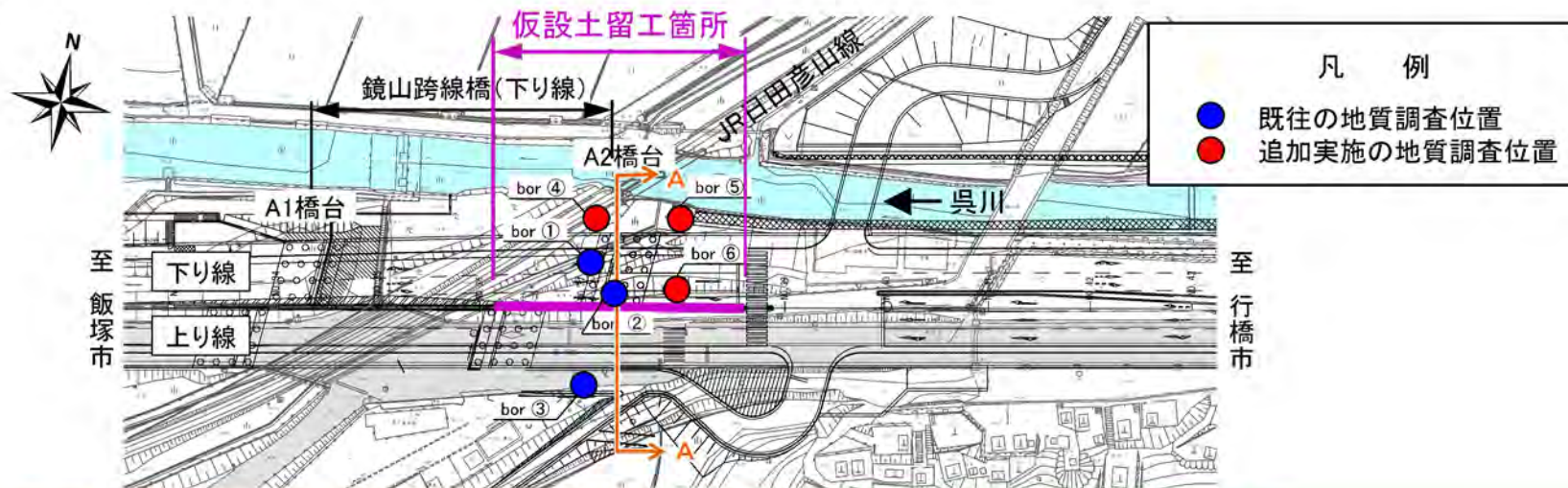


4. 事業の進捗状況(事業費の見直し) 5/8

②渡河橋部及び跨線橋部の橋梁計画及び仮設計画の見直し

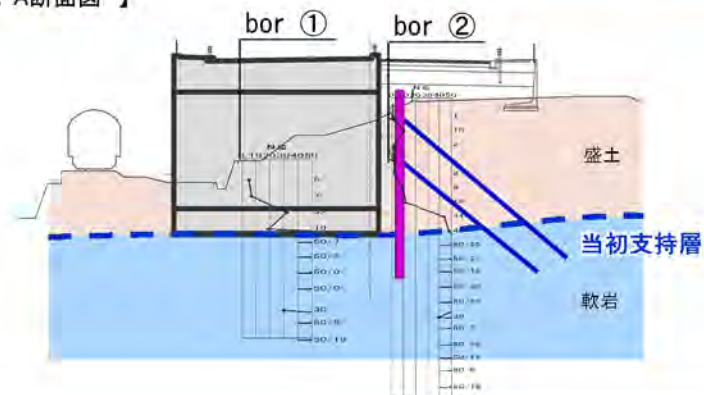
②-2 跨線橋部の地質調査結果に伴う仮設土留工の深さの変更に伴う増【+約4億円】

・当初、近傍の地質調査の結果に基づき鏡山跨線橋(下り線)のA2橋台施工のための仮設土留工の設計を行っていた。用地買収の進捗に伴い、追加の地質調査を実施した結果、当初想定より支持層が深くなっていたため、仮設土留工の深さを変更する必要が生じた。



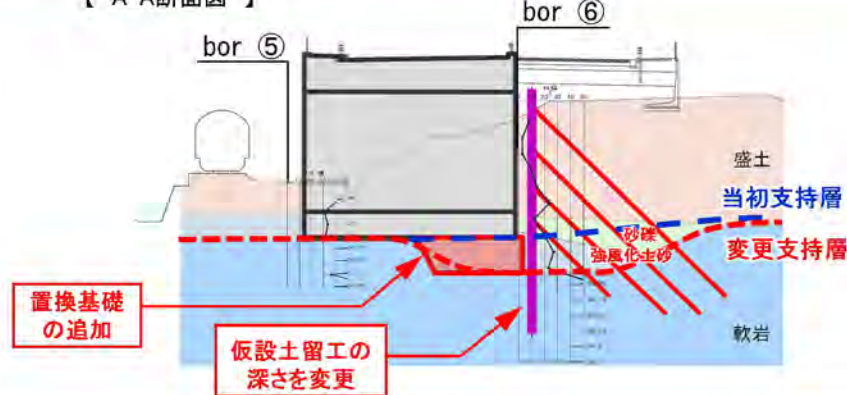
当初計画時

【 A-A断面図 】



変更計画時

【 A-A断面図 】

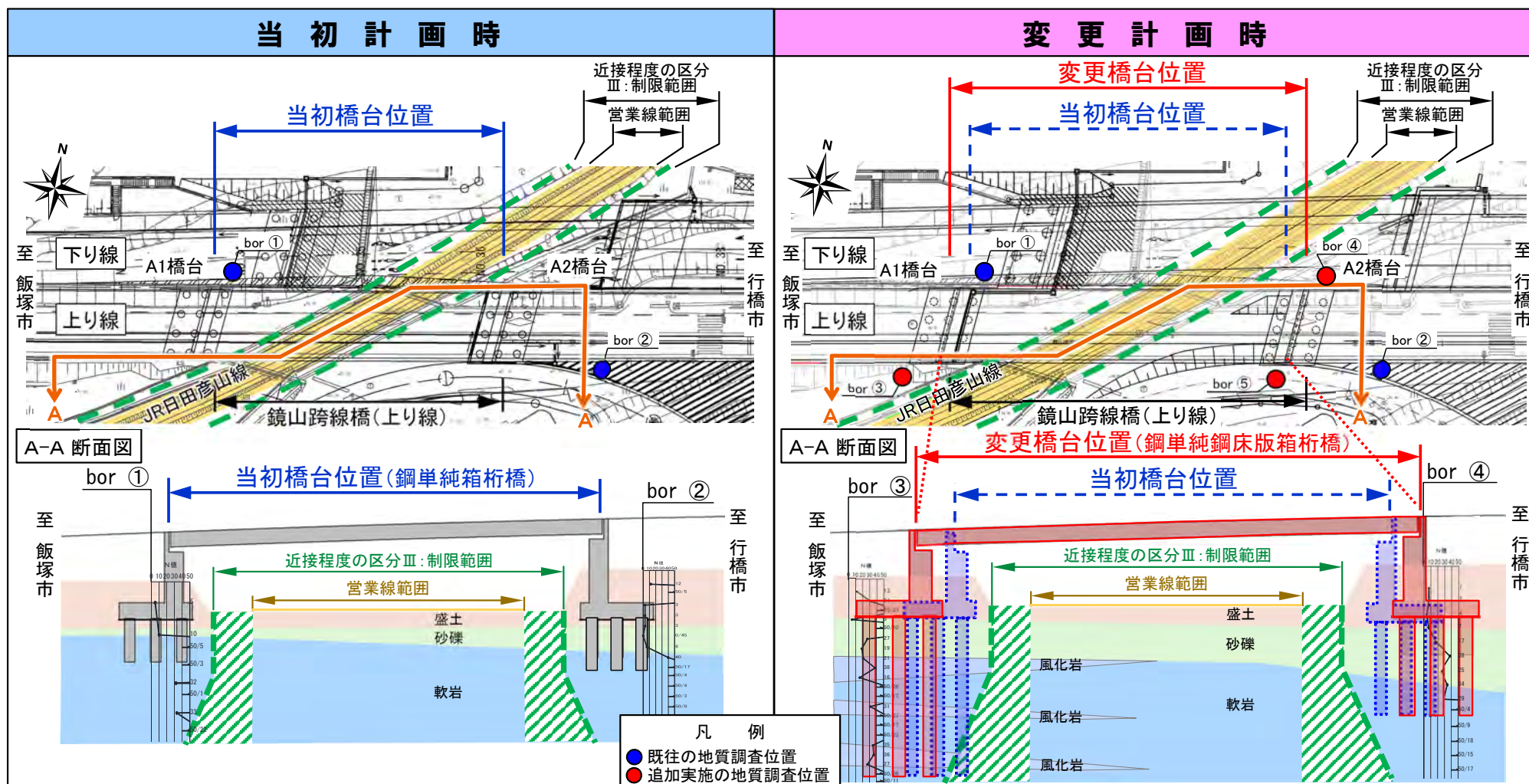


4. 事業の進捗状況(事業費の見直し) 6/8

②渡河橋部及び跨線橋部の橋梁計画及び仮設計画の見直し

②-3 跨線橋部の橋梁計画の見直しに伴う増【+約10億円】

・当初、近傍の地質調査の結果に基づき鏡山跨線橋(上り線)の橋台位置を計画していた。橋台位置での追加の地質調査を実施した結果、杭基礎の長さが変更となり、軌道への影響検討を踏まえ、基礎杭及び下部工施工に伴う仮設土留工が軌道へ影響のない橋台位置に変更するとともに、橋梁形式を変更する必要が生じた。

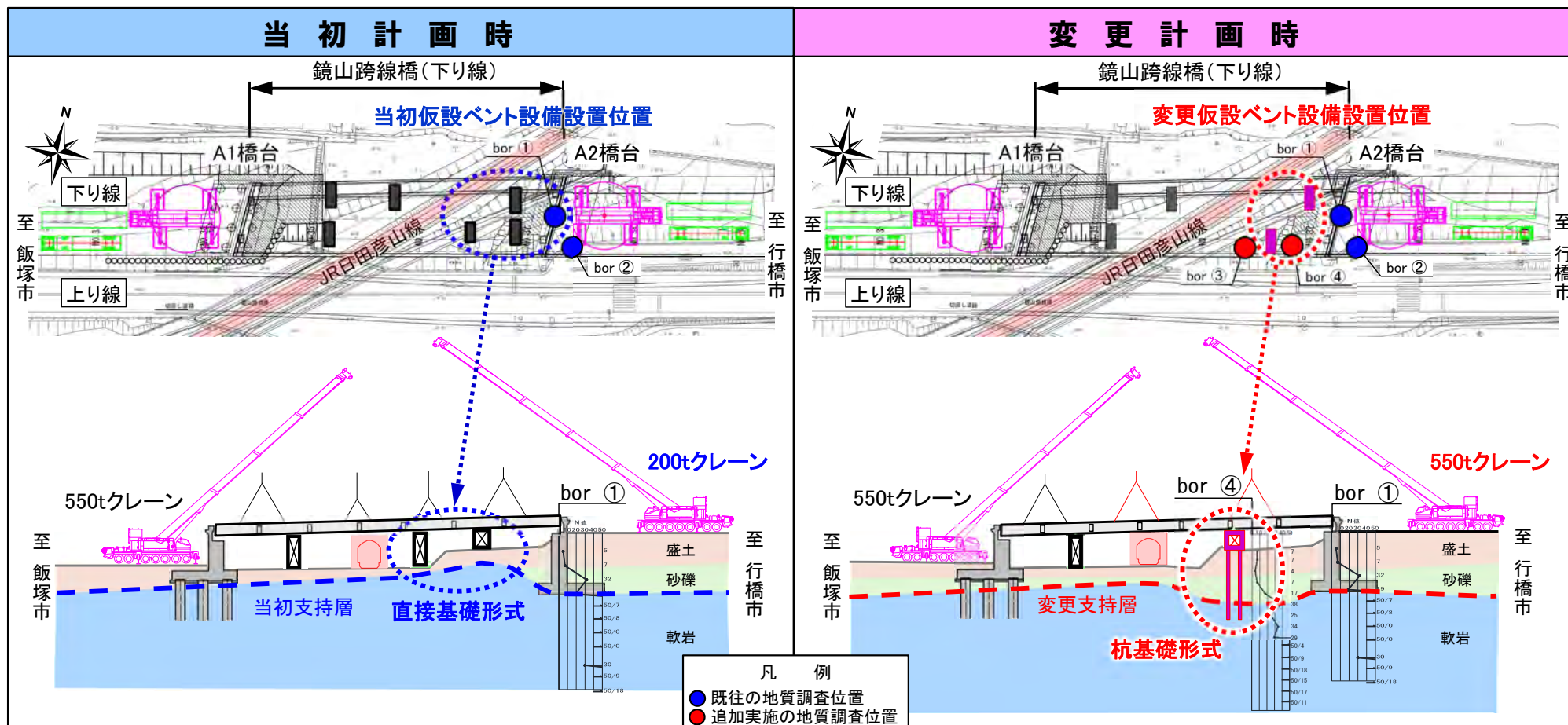


4. 事業の進捗状況(事業費の見直し) 7/8

②渡河橋部及び跨線橋部の橋梁計画及び仮設計画の見直し

②-4 跨線橋部の橋梁架設方法の見直しに伴う増【+約7億円】

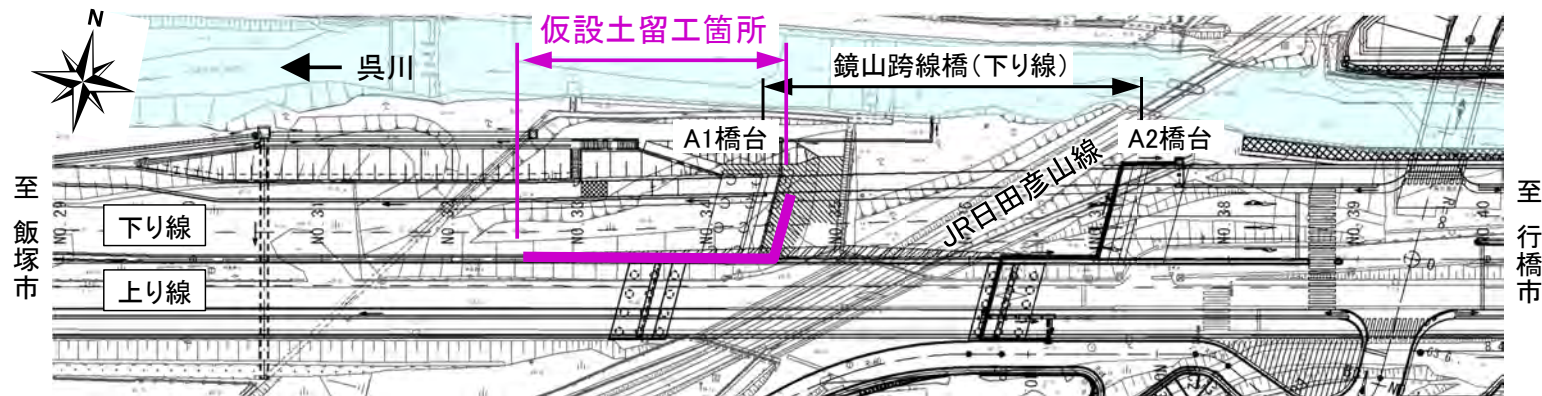
・鏡山跨線橋(下り線)の橋梁上部工架設は、クレーンバント架設を計画しており、当初、仮設バント設備は直接基礎形式で計画していた。追加の地質調査を実施した結果、当初想定より支持層が深く、地盤改良が追加となることが判明した。そのため、仮設バント設備構造の比較検討及び軌道への影響検討を踏まえ鉄道管理者と協議を行った結果、基礎形式を経済性に優れた杭基礎形式を採用するとともに、設置位置を変更する必要が生じた。また、仮設バント設備の設置位置の変更に伴い、A2橋台側のクレーンの規格を200tから550tへ変更する必要が生じた。



4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)コスト削減 8/8

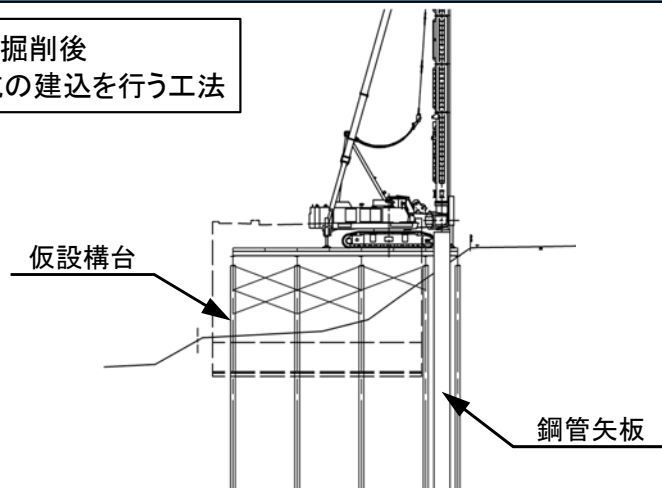
③仮設土留工の施工工法の見直しによるコスト削減【-約0.3億円】

・鏡山跨線橋(下り線)のA1橋台施工のための仮設土留工の施工については、当初、仮設構台を設置し、鋼管矢板の施工を予定していた。詳細設計時に新技術も含めた施工工法の比較検討の結果、新技術の施工工法の採用により、仮設構台が不要となり、コスト削減を図った。



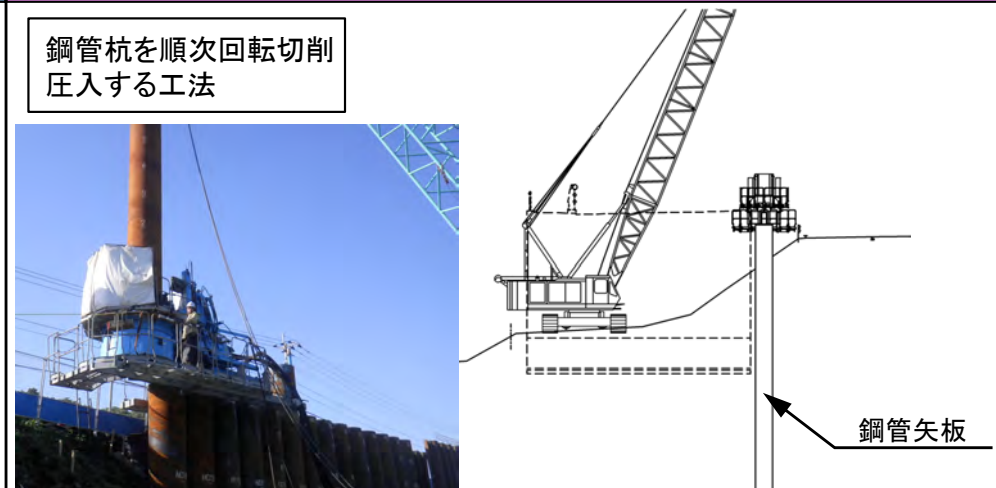
当初計画時

岩盤を掘削後
鋼管杭の建込を行う工法



変更計画時

鋼管杭を順次回転切削
圧入する工法



5. 事業の投資効果・必要性(まとめ)

《効果名》

【効果の概要】

①走行時間短縮、走行費用減少、
交通事故減少

107億円

②基幹産業を支える物流道路

- ・国際競争力強化に向け、空港・港湾機能の拡充や物流施設の新設などが相次ぎ予定されており、物流道路としての重要性が増していることから、交通ボトルネックとなる脆弱な2車線区間の整備促進が望まれる。

③交通混雑の緩和

- ・香春拡幅の整備により、交通混雑が緩和され、走行性の向上が期待される。

④交通安全性の向上

- ・香春拡幅の整備により、交通混雑が緩和され、交通安全性の向上が期待される。

⑤災害に強い道路ネットワークの構築

- ・香春拡幅の整備により、救援物資等の円滑な輸送や緊急車両等の早期到着が可能となるなど、災害に強い道路ネットワークの構築が期待される。

⑥費用便益分析（算定に用いた効果①）

事業全体：1.02

残事業：2.4

6. 対応方針(原案)

- 香春拡幅は、国道201号の**交通混雑の緩和**や**交通安全性の向上**、**物流の効率化**による**地域産業の支援**等を目的とした事業である。
- 費用対効果についても、**B/C1.0以上が確保されている事業**である。
- 事業進捗率は、**事業費ベースで約48%[約49億円/約101億円]**(令和2年度末)であり、そのうち、**用地進捗率は100%**となっている。
- なお、香春町が地元協議の連絡調整を行うなど、**地元自治体等からの支援も頂いており、今後の円滑な事業執行が可能**である。
- よって、当該事業の完成に向けて、**事業を継続すること**としたい。

卷 末 資 料

一般国道201号 香春拡幅

様式 1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道201号 香春拡幅
事業主体	九州地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

		指 標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性	■ 便益が費用を上回っている	全事業：費用便益比（B／C）＝1.02（経済的純現在価値（B－C）＝1.9億円、経済的内部収益率（E I R R）＝4.1％） 残事業：費用便益比（B／C）＝2.4（経済的純現在価値（B－C）＝63億円、経済的内部収益率（E I R R）＝12％）

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標		指 標（対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは□を■に変更）	指標チェックの根拠
1. 活力	円滑なモビリティの確保	● 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率	区間b（当該区間/並行区間）について：国道201号（香春町大字鏡山～香春町大字鏡山） 当該区間等の渋滞損失時間（現況）： 8.25万人・時間/年 当該区間等の渋滞損失削減率： 約3割削減
		□ 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	
		□ 現道又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上の上の踏切道の除却もしくは交通改善が期待される	
		□ 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する	
		□ 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる	
		□ 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	
	物流効率化の支援	■ 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる	香春町⇒苅田港（重要港湾） [全事業・残事業]約1分短縮[整備前約40分→整備後約39分]：国道201号香春拡幅
		□ 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上	
		□ 現道等における、総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する	

1. 活力	都市の再生	☐ 都市再生プロジェクトを支援する事業である	
		☐ 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する	
		☐ 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり	
		☐ 中心市街地内で行う事業である	
		☐ 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km ² 以下である市街地内での事業である	
		☐ DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する	
		☐ 対象区間が現在連絡道路がない住宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上)への連絡道路となる	
	国土・地域ネットワークの構築	☐ 高速自動車国道と並行する自専道(A'路線)としての位置づけ有り	
		☐ 地域高規格道路の位置づけあり	
		☐ 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	
		☐ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	
		☐ 現道等における交通不能区間を解消する	
		☐ 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する	
		☐ 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる	
	個性ある地域の形成	☐ 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する	
		☒ 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する	「九州北部自動車アジア先進拠点プロジェクト」と連携した自動車関連の産業振興を支援する。
		☐ 主要な観光地へのアクセス向上が期待される	
		☐ 特別立法に基づく事業である	
		☐ 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である	
		☐ 歴史的景観を活かした道路整備や中心商店街のシンボリックな道路整備等、特色あるまちづくりに資する事業である	
2. 暮らし	歩行者・自転車のための生活空間の形成	☐ 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上全ての区間に該当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる	
		☐ 交通バリアフリー法における道路特定事業に位置付けがある。または、交通バリアフリー法に基づく重点整備地区における特定道路を形成する区間が新たにバリアフリー化される	
	無電柱化による美しい町並みの形成	☐ 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけ有り	
		☐ 市街地又は歴史景観地区(歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区)の幹線道路において新たに無電柱化を達成する	
	安全で安心できるくらしの確保	☒ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる	みやこ町役場⇒飯塚病院 [全事業・残事業]約1分短縮[整備前約40分⇒整備後約39分]: 国道201号香春拡幅

3. 安全	安全な生活環境の確保	☐ 現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる	
		☐ 当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上（当該区間が通学路である場合は500台/12h以上）かつ歩行者交通量100人/日以上（当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上）の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される	
	災害への備え	☐ 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する	
		☒ 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり	国道201号：緊急輸送道路ネットワーク計画（福岡県）において、第一次緊急輸送道路に位置付けられている
		☐ 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する	
		☐ 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する（A'路線としての位置づけがある場合）	
		☐ 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される	
		☐ 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する	
		☐ 避難路へ1km以内で到達できる地区が新たに増加する	
		☐ 幅員6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消する	
		☐ 密集市街地における事業で火災時の延焼遮断帯の役割を果たす	
4. 環境	地球環境の保全	☒ 対象道路の整備により削減される自動車からのCO ₂ 排出量	CO ₂ 排出削減量：2,799t-CO ₂ /年（全事業・残事業）
	生活環境の改善・保全	☒ 現道等における自動車からのNO ₂ 排出削減率	評価対象区間（現道等）：国道201号（香春町大字鏡山～香春町大字鏡山） 排出削減量：10.3t-NOx/年、排出削減率：約2割削減（全事業・残事業）
		☒ 現道等における自動車からのSPM排出削減率	評価対象区間（現道等）：国道201号（香春町大字鏡山～香春町大字鏡山） 排出削減量：0.53t-SPM/年、排出削減率：約2割削減（全事業・残事業）
		☐ 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある	
		☐ その他、環境や景観上の効果が期待される	
5. その他	他のプロジェクトとの関係	☐ 道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている	
		☒ 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり	国道322号香春大任バイパス整備事業との連携
		☐ 他機関との連携プログラムに位置づけられている	
		☐ その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が見込まれる	

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・ＢＰ・その他の別
一般国道201号	香春拡幅	2.1km	二次改築	現 拡

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
29,500～34,200	4	九州地方整備局

① 費 用

	事業費	維持管理費	合 計
基 準 年	令和３年度		
単純合計	93億円	22億円	115億円
うち残事業分	40億円	22億円	62億円
基準年における 現在価値（Ｃ）	97億円	8.0億円	105億円
うち残事業分	36億円	8.0億円	44億円

② 便 益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合 計
基 準 年	令和３年度			
供 用 年	令和８年度			
単年便益 (初年便益)	5.1億円	1.2億円	0.07億円	6.4億円
基準年における 現在価値（Ｂ）	87億円	19億円	1.1億円	107億円
うち残事業分	87億円	19億円	1.1億円	107億円

③ 結 果

費用便益比（事業全体）	1.02
経済的純現在価値（事業全体）	1.9 億円
経済的内部収益率（事業全体）	4.1 %
費用便益比（残事業）	2.4
経済的純現在価値（残事業）	63 億円
経済的内部収益率（残事業）	12 %

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感 度 分 析

【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	29,500～34,200	±10%	0.87 ～ 1.2
事業費	93億円	±10%	0.98 ～ 1.1
事業期間	18年	±20%	0.97 ～ 1.02

【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	29,500～34,200	±10%	2.1 ～ 2.8
事業費	40億円	±10%	2.4 ～ 2.5
事業期間	4年	±20%	2.3 ～ 2.4

交通状況の変化

様式－3①

事業名：一般国道201号 香春拡幅

(推計時点 R12年) (事業全体、残事業)

			整備なし (A)	整備あり (B)	
①新設・改築道路 【現道拡幅区間】 ：2.1km		交通量	[台/日]	23,800	31,300
		走行時間	[分]	3.9	2.5
		走行時間費用	[億円/年]	18.24	15.58
②主な周辺道路	国道201号：6.3km	交通量	[台/日]	17,400	22,000
		走行時間	[分]	10	11
		走行時間費用	[億円/年]	32.55	46.35
	国道322号：17.5km	交通量	[台/日]	15,500	15,400
		走行時間	[分]	32	32
		走行時間費用	[億円/年]	98.99	97.87
	(主)苅田探銅所線：7.5km	交通量	[台/日]	5,500	900
		走行時間	[分]	16	16
		走行時間費用	[億円/年]	16.95	2.48
③その他道路合計 ：2508.5km		走行時間費用	[億円/年]	7,711.42	7,710.72
			走行時間費用 整備なし (A)	走行時間費用 整備あり (B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：2541.9km	走行時間短縮便益	[億円/年]	7878.15	7872.99	5.16

事業名：一般国道201号 香春拡幅



費用便益分析の条件

事業名：一般国道201号 香春拡幅

(2)

項目		チェック欄		
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成30年2月 国土交通省 道路局 都市局)	☒		
	その他	☐		
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間		
	社会的割引率	4%		
	基準年次	令和3年		
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	☒ (R12年)	
		複数時点での推計	☐	
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	☒	
		整備の有無のいずれかのみ推計	☐ 有 ☐ 無	
		いずれかのみ推計の場合	いずれかのみ推計とした理由を記載	
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	☒ (H22センサス)	
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	☐	
		その他()	☐	
		無	☒	
	開発交通量の考慮	有	☐	
		有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数) 考慮した理由を記載	() 台トリップ/日
		配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	☐
			転換率式を用いた配分	☐
	Q-V式と転換率式の併用による配分		☒	
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)		☐	
	簡易手法		☐	
	簡易手法の採択理由		小規模事業である	☐
			山間部海岸部で併行道路が少ない	☐
			その他()	
	簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)			
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定	☒		
	採用理由を記載 交通量が、交通容量(Qmax～Qmin)以上の路線、交通容量(Qmax～Qmin)の路線等が混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。			
	最終配分の速度	☐		
	採用理由を記載			
	その他()	☐		

– 9 –

事業名:一般国道201号 香春拡幅

(4)

項目			チェック欄	
費用の算定	事業費	詳細事業計画による値を採用	☐	
		標準投資パターンを採用	☒	
		その他()	☐	
	維持管理費	維持管理費の設定根拠を記載 当該区間を管轄する事務所における直轄国道の維持管理費実績に基づき算出		
		雪寒費	積雪地域または寒冷地域である	☐
	当該道路整備が行われない場合の費用	考慮しない		☒
		考慮する		☐
		考慮する場合のみ	事業費を考慮	☐
			維持管理費を考慮	☐
	当該道路整備が行われない場合の費用を考慮した理由及び考え方を記載(対策内容、費用等)			
その他				
4. その他				

費用の現在価値算定表

箇所名：一般国道201号 香春拡幅(事業全体)				維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)			
				単価(億円)		延長(km)	
				0.23		2.1	
年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
-18年目	H 20	1.6651	101.6	0.45	0.75		
-17年目	H 21	1.6010	100.3	0.31	0.50		
-16年目	H 22	1.5395	98.6	0.29	0.45		
-15年目	H 23	1.4802	97.2	0.29	0.44		
-14年目	H 24	1.4233	96.4	4.23	6.32		
-13年目	H 25	1.3686	96.4	1.20	1.72		
-12年目	H 26	1.3159	98.7	1.23	1.66		
-11年目	H 27	1.2653	100.2	1.32	1.69		
-10年目	H 28	1.2167	100.3	5.82	7.14		
-9年目	H 29	1.1699	100.5	5.22	6.15		
-8年目	H 30	1.1249	100.4	6.53	7.40		
-7年目	R 1	1.0816	101.2	9.15	9.90		
-6年目	R 2	1.0400	101.2	9.10	9.46		
-5年目	R 3	1.0000	101.2	8.32	8.32		
-4年目	R 4	0.9615	101.2	10.09	9.70		
-3年目	R 5	0.9246	101.2	8.15	7.54		
-2年目	R 6	0.8890	101.2	9.09	8.08		
-1年目	R 7	0.8548	101.2	12.45	10.65		
供用開始年次	R 8	0.8219	101.2			0.44	0.36
1年目	R 9	0.7903	101.2			0.44	0.34
2年目	R 10	0.7599	101.2			0.44	0.33
3年目	R 11	0.7307	101.2			0.44	0.32
4年目	R 12	0.7026	101.2			0.44	0.31
5年目	R 13	0.6756	101.2			0.44	0.29
6年目	R 14	0.6496	101.2			0.44	0.28
7年目	R 15	0.6246	101.2			0.44	0.27
8年目	R 16	0.6006	101.2			0.44	0.26
9年目	R 17	0.5775	101.2			0.44	0.25
10年目	R 18	0.5553	101.2			0.44	0.24
11年目	R 19	0.5339	101.2			0.44	0.23
12年目	R 20	0.5134	101.2			0.44	0.22
13年目	R 21	0.4936	101.2			0.44	0.22
14年目	R 22	0.4746	101.2			0.44	0.21
15年目	R 23	0.4564	101.2			0.44	0.20
16年目	R 24	0.4388	101.2			0.44	0.19
17年目	R 25	0.4220	101.2			0.44	0.18
18年目	R 26	0.4057	101.2			0.44	0.18
19年目	R 27	0.3901	101.2			0.44	0.17
20年目	R 28	0.3751	101.2			0.44	0.16
21年目	R 29	0.3607	101.2			0.44	0.16
22年目	R 30	0.3468	101.2			0.44	0.15
23年目	R 31	0.3335	101.2			0.44	0.15
24年目	R 32	0.3207	101.2			0.44	0.14
25年目	R 33	0.3083	101.2			0.44	0.13
26年目	R 34	0.2965	101.2			0.44	0.13
27年目	R 35	0.2851	101.2			0.44	0.12
28年目	R 36	0.2741	101.2			0.44	0.12
29年目	R 37	0.2636	101.2			0.44	0.12
30年目	R 38	0.2534	101.2			0.44	0.11
31年目	R 39	0.2437	101.2			0.44	0.11
32年目	R 40	0.2343	101.2			0.44	0.10
33年目	R 41	0.2253	101.2			0.44	0.10
34年目	R 42	0.2166	101.2			0.44	0.09
35年目	R 43	0.2083	101.2			0.44	0.09
36年目	R 44	0.2003	101.2			0.44	0.09
37年目	R 45	0.1926	101.2			0.44	0.08
38年目	R 46	0.1852	101.2			0.44	0.08
39年目	R 47	0.1780	101.2			0.44	0.08
40年目	R 48	0.1712	101.2			0.44	0.07
41年目	R 49	0.1646	101.2			0.44	0.07
42年目	R 50	0.1583	101.2			0.44	0.07
43年目	R 51	0.1522	101.2			0.44	0.07
44年目	R 52	0.1463	101.2			0.44	0.06
45年目	R 53	0.1407	101.2			0.44	0.06
46年目	R 54	0.1353	101.2			0.44	0.06
47年目	R 55	0.1301	101.2			0.44	0.06
48年目	R 56	0.1251	101.2			0.44	0.05
49年目	R 57	0.1203	101.2	-5.80	-0.70	0.44	0.05
合 計				87.44	97.18	21.82	8.01
単純事業費計				93.24		21.82	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的なパターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表

箇所名：一般国道201号 香春拡幅(残事業)					維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)		
					単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
					0.23	2.1	0.48
年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-4年目	R 4	0.9615	101.2	10.09	9.70		
-3年目	R 5	0.9246	101.2	8.15	7.54		
-2年目	R 6	0.8890	101.2	9.09	8.08		
-1年目	R 7	0.8548	101.2	12.45	10.65		
供用開始年次	R 8	0.8219	101.2			0.44	0.36
1年目	R 9	0.7903	101.2			0.44	0.34
2年目	R 10	0.7599	101.2			0.44	0.33
3年目	R 11	0.7307	101.2			0.44	0.32
4年目	R 12	0.7026	101.2			0.44	0.31
5年目	R 13	0.6756	101.2			0.44	0.29
6年目	R 14	0.6496	101.2			0.44	0.28
7年目	R 15	0.6246	101.2			0.44	0.27
8年目	R 16	0.6006	101.2			0.44	0.26
9年目	R 17	0.5775	101.2			0.44	0.25
10年目	R 18	0.5553	101.2			0.44	0.24
11年目	R 19	0.5339	101.2			0.44	0.23
12年目	R 20	0.5134	101.2			0.44	0.22
13年目	R 21	0.4936	101.2			0.44	0.22
14年目	R 22	0.4746	101.2			0.44	0.21
15年目	R 23	0.4564	101.2			0.44	0.20
16年目	R 24	0.4388	101.2			0.44	0.19
17年目	R 25	0.4220	101.2			0.44	0.18
18年目	R 26	0.4057	101.2			0.44	0.18
19年目	R 27	0.3901	101.2			0.44	0.17
20年目	R 28	0.3751	101.2			0.44	0.16
21年目	R 29	0.3607	101.2			0.44	0.16
22年目	R 30	0.3468	101.2			0.44	0.15
23年目	R 31	0.3335	101.2			0.44	0.15
24年目	R 32	0.3207	101.2			0.44	0.14
25年目	R 33	0.3083	101.2			0.44	0.13
26年目	R 34	0.2965	101.2			0.44	0.13
27年目	R 35	0.2851	101.2			0.44	0.12
28年目	R 36	0.2741	101.2			0.44	0.12
29年目	R 37	0.2636	101.2			0.44	0.12
30年目	R 38	0.2534	101.2			0.44	0.11
31年目	R 39	0.2437	101.2			0.44	0.11
32年目	R 40	0.2343	101.2			0.44	0.10
33年目	R 41	0.2253	101.2			0.44	0.10
34年目	R 42	0.2166	101.2			0.44	0.09
35年目	R 43	0.2083	101.2			0.44	0.09
36年目	R 44	0.2003	101.2			0.44	0.09
37年目	R 45	0.1926	101.2			0.44	0.08
38年目	R 46	0.1852	101.2			0.44	0.08
39年目	R 47	0.1780	101.2			0.44	0.08
40年目	R 48	0.1712	101.2			0.44	0.07
41年目	R 49	0.1646	101.2			0.44	0.07
42年目	R 50	0.1583	101.2			0.44	0.07
43年目	R 51	0.1522	101.2			0.44	0.07
44年目	R 52	0.1463	101.2			0.44	0.06
45年目	R 53	0.1407	101.2			0.44	0.06
46年目	R 54	0.1353	101.2			0.44	0.06
47年目	R 55	0.1301	101.2			0.44	0.06
48年目	R 56	0.1251	101.2			0.44	0.05
49年目	R 57	0.1203	101.2			0.44	0.05
合 計				39.79	35.97	21.82	8.01
単純事業費計				39.79		21.82	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的なパターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

便益の現在価値算定表

箇所名：一般国道201号 香春拡幅(事業全体・残事業)

年次	年度 (基準年) 2021 (R3)	総走行台キロの年次別伸び率 (北九州ブロック)				割戻率 (A)	GDP デフレーター	走行時間短縮便益(億円)					走行経費減少便益(億円)					事故減少便益(億円)		合 計 (億円)	
		乗用車類	小型貨物	普通貨物	全 車			乗用車類	小型貨物	普通貨物	① 計	現在価値 ①×(A)	乗用車類	小型貨物	普通貨物	② 計	現在価値 (A)×②	③	現在価値 ③×(A)	便益合計 (①～③)	現在価値 割戻率4%
供用開始年次	R 8	0.99862	0.98536	1.00477	0.99728	0.8219	101.2	2.64	0.30	2.20	5.15	4.23	0.97	0.07	0.10	1.15	0.95	0.07	0.05	6.37	5.23
1年目	R 9	0.99862	0.98514	1.00475	0.99728	0.7903	101.2	2.64	0.30	2.21	5.15	4.07	0.97	0.07	0.10	1.15	0.91	0.07	0.05	6.37	5.03
2年目	R 10	0.99862	0.98491	1.00473	0.99727	0.7599	101.2	2.63	0.29	2.23	5.15	3.92	0.97	0.07	0.10	1.15	0.87	0.07	0.05	6.37	4.84
3年目	R 11	0.99861	0.98468	1.00470	0.99726	0.7307	101.2	2.63	0.29	2.24	5.15	3.77	0.97	0.07	0.11	1.15	0.84	0.07	0.05	6.37	4.65
4年目	R 12	0.99165	0.99085	0.99720	0.99229	0.7026	101.2	2.63	0.28	2.25	5.16	3.62	0.97	0.07	0.11	1.14	0.80	0.07	0.05	6.37	4.47
5年目	R 13	0.99158	0.99076	0.99720	0.99223	0.6756	101.2	2.60	0.28	2.24	5.13	3.46	0.96	0.07	0.11	1.14	0.77	0.07	0.04	6.33	4.27
6年目	R 14	0.99151	0.99067	0.99719	0.99217	0.6496	101.2	2.58	0.28	2.23	5.10	3.31	0.95	0.07	0.11	1.13	0.73	0.06	0.04	6.29	4.08
7年目	R 15	0.99144	0.99059	0.99718	0.99210	0.6246	101.2	2.56	0.28	2.23	5.06	3.16	0.94	0.07	0.10	1.12	0.70	0.06	0.04	6.25	3.90
8年目	R 16	0.99136	0.99050	0.99717	0.99204	0.6006	101.2	2.54	0.27	2.22	5.03	3.02	0.94	0.07	0.10	1.11	0.67	0.06	0.04	6.21	3.73
9年目	R 17	0.99129	0.99041	0.99717	0.99198	0.5775	101.2	2.52	0.27	2.21	5.00	2.89	0.93	0.07	0.10	1.10	0.63	0.06	0.04	6.17	3.56
10年目	R 18	0.99121	0.99031	0.99716	0.99191	0.5553	101.2	2.49	0.27	2.21	4.97	2.76	0.92	0.07	0.10	1.09	0.61	0.06	0.03	6.13	3.40
11年目	R 19	0.99113	0.99022	0.99715	0.99185	0.5339	101.2	2.47	0.27	2.20	4.94	2.64	0.91	0.07	0.10	1.08	0.58	0.06	0.03	6.09	3.25
12年目	R 20	0.99105	0.99012	0.99714	0.99178	0.5134	101.2	2.45	0.26	2.20	4.91	2.52	0.90	0.07	0.10	1.07	0.55	0.06	0.03	6.04	3.10
13年目	R 21	0.99097	0.99002	0.99713	0.99171	0.4936	101.2	2.43	0.26	2.19	4.88	2.41	0.90	0.06	0.10	1.06	0.52	0.06	0.03	6.00	2.96
14年目	R 22	0.99089	0.98992	0.99712	0.99164	0.4746	101.2	2.41	0.26	2.18	4.85	2.30	0.89	0.06	0.10	1.05	0.50	0.06	0.03	5.96	2.83
15年目	R 23	0.99081	0.98982	0.99712	0.99157	0.4564	101.2	2.38	0.26	2.18	4.82	2.20	0.88	0.06	0.10	1.05	0.48	0.06	0.03	5.92	2.70
16年目	R 24	0.99072	0.98972	0.99711	0.99150	0.4388	101.2	2.36	0.25	2.17	4.79	2.10	0.87	0.06	0.10	1.04	0.45	0.06	0.03	5.88	2.58
17年目	R 25	0.99064	0.98961	0.99710	0.99143	0.4220	101.2	2.34	0.25	2.16	4.76	2.01	0.86	0.06	0.10	1.03	0.43	0.06	0.03	5.84	2.47
18年目	R 26	0.99055	0.98950	0.99709	0.99135	0.4057	101.2	2.32	0.25	2.16	4.73	1.92	0.85	0.06	0.10	1.02	0.41	0.06	0.02	5.80	2.35
19年目	R 27	0.99046	0.98939	0.99708	0.99128	0.3901	101.2	2.30	0.25	2.15	4.70	1.83	0.85	0.06	0.10	1.01	0.39	0.06	0.02	5.76	2.25
20年目	R 28	0.99036	0.98927	0.99707	0.99120	0.3751	101.2	2.28	0.24	2.15	4.66	1.75	0.84	0.06	0.10	1.00	0.38	0.06	0.02	5.72	2.15
21年目	R 29	0.99027	0.98916	0.99707	0.99112	0.3607	101.2	2.25	0.24	2.14	4.63	1.67	0.83	0.06	0.10	0.99	0.36	0.06	0.02	5.68	2.05
22年目	R 30	0.99018	0.98904	0.99706	0.99104	0.3468	101.2	2.23	0.24	2.13	4.60	1.60	0.82	0.06	0.10	0.98	0.34	0.06	0.02	5.64	1.96
23年目	R 31	0.99008	0.98892	0.99705	0.99096	0.3335	101.2	2.21	0.24	2.13	4.57	1.52	0.81	0.06	0.10	0.97	0.32	0.06	0.02	5.60	1.87
24年目	R 32	0.98998	0.98879	0.99704	0.99088	0.3207	101.2	2.19	0.23	2.12	4.54	1.46	0.81	0.06	0.10	0.96	0.31	0.06	0.02	5.56	1.78
25年目	R 33	0.98988	0.98867	0.99703	0.99080	0.3083	101.2	2.17	0.23	2.11	4.51	1.39	0.80	0.06	0.10	0.95	0.29	0.06	0.02	5.52	1.70
26年目	R 34	0.98977	0.98854	0.99702	0.99071	0.2965	101.2	2.14	0.23	2.11	4.48	1.33	0.79	0.06	0.10	0.95	0.28	0.05	0.02	5.48	1.62
27年目	R 35	0.98967	0.98840	0.99701	0.99062	0.2851	101.2	2.12	0.22	2.10	4.45	1.27	0.78	0.06	0.10	0.94	0.27	0.05	0.02	5.44	1.55
28年目	R 36	0.98956	0.98827	0.99700	0.99053	0.2741	101.2	2.10	0.22	2.10	4.42	1.21	0.77	0.06	0.10	0.93	0.25	0.05	0.01	5.40	1.48
29年目	R 37	0.98945	0.98813	0.99699	0.99044	0.2636	101.2	2.08	0.22	2.09	4.39	1.16	0.77	0.05	0.10	0.92	0.24	0.05	0.01	5.36	1.41
30年目	R 38	0.98934	0.98799	0.99699	0.99035	0.2534	101.2	2.06	0.22	2.08	4.36	1.10	0.76	0.05	0.10	0.91	0.23	0.05	0.01	5.32	1.35
31年目	R 39	0.98922	0.98784	0.99698	0.99026	0.2437	101.2	2.03	0.21	2.08	4.33	1.05	0.75	0.05	0.10	0.90	0.22	0.05	0.01	5.28	1.29
32年目	R 40	0.98911	0.98769	0.99697	0.99016	0.2343	101.2	2.01	0.21	2.07	4.29	1.01	0.74	0.05	0.10	0.89	0.21	0.05	0.01	5.24	1.23
33年目	R 41	0.98899	0.98754	0.99696	0.99006	0.2253	101.2	1.99	0.21	2.06	4.26	0.96	0.73	0.05	0.10	0.88	0.20	0.05	0.01	5.20	1.17
34年目	R 42	0.98886	0.98738	0.99695	0.98996	0.2166	101.2	1.97	0.21	2.06	4.23	0.92	0.73	0.05	0.10	0.87	0.19	0.05	0.01	5.16	1.12
35年目	R 43	0.98874	0.98722	0.99694	0.98986	0.2083	101.2	1.95	0.20	2.05	4.20	0.88	0.72	0.05	0.10	0.86	0.18	0.05	0.01	5.12	1.07
36年目	R 44	0.98861	0.98705	0.99693	0.98976	0.2003	101.2	1.92	0.20	2.05	4.17	0.84	0.71	0.05	0.10	0.86	0.17	0.05	0.01	5.08	1.02
37年目	R 45	0.98848	0.98688	0.99692	0.98965	0.1926	101.2	1.90	0.20	2.04	4.14	0.80	0.70	0.05	0.10	0.85	0.16	0.05	0.01	5.04	0.97
38年目	R 46	0.98834	0.98671	0.99691	0.98954	0.1852	101.2	1.88	0.20	2.03	4.11	0.76	0.69	0.05	0.10	0.84	0.16	0.05	0.01	5.00	0.93
39年目	R 47	0.98821	0.98653	0.99690	0.98943	0.1780	101.2	1.86	0.19	2.03	4.08	0.73	0.69	0.05	0.10	0.83	0.15	0.05	0.01	4.96	0.88
40年目	R 48	0.98807	0.98634	0.99689	0.98932	0.1712	101.2	1.84	0.19	2.02	4.05	0.69	0.68	0.05	0.10	0.82	0.14	0.05	0.01	4.92	0.84
41年目	R 49	0.98792	0.98616	0.99688	0.98921	0.1646	101.2	1.81	0.19	2.01	4.02	0.66	0.67	0.05	0.09	0.81	0.13	0.05	0.01	4.87	0.80
42年目	R 50	0.98777	0.98596	0.99687	0.98909	0.1583	101.2	1.79	0.19	2.01	3.99	0.63	0.66	0.05	0.09	0.80	0.13	0.05	0.01	4.83	0.77
43年目	R 51	0.98762	0.98576	0.99686	0.98897	0.1522	101.2	1.77	0.18	2.00	3.96	0.60	0.65	0.05	0.09	0.79	0.12	0.05	0.01	4.79	0.73
44年目	R 52	0.98747	0.98556	0.99685	0.98884	0.1463	101.2	1.75	0.18	2.00	3.92	0.57	0.64	0.04	0.09	0.78	0.11	0.05	0.01	4.75	0.70
45年目	R 53	0.98731	0.98534	0.99684	0.98872	0.1407	101.2	1.73	0.18	1.99	3.89	0.55	0.64	0.04	0.09	0.77	0.11	0.05	0.01	4.71	0.66
46年目	R 54	0.98714	0.98513	0.99683	0.98859	0.1353	101.2	1.71	0.18	1.98	3.86	0.52	0.63	0.04	0.09	0.77	0.10	0.04	0.01	4.67	0.63
47年目	R 55	0.98698	0.98490	0.99682	0.98846	0.1301	101.2	1.68	0.17	1.98	3.83	0.50	0.62	0.04	0.09	0.76					

全体事業費内訳

参考様式 1

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道201号	香春拡幅	4	2.1km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					8,448	
	改良費				2,003	
		土工	m3	87,800	862	切土(48,800m ³)、盛土(39,000m ³)
		軟弱地盤改良工	m3			
		法面工	m ²	1,660	4	種子吹付、種子散布
		擁壁工	式	1	676	ブロック積、補強土壁、大型ブロック積、L型擁壁
		管渠工	m	300	17	
		函渠工	m	95	23	
		排水工	m	5,500	201	
		中央分離帯工	m	2,990	96	
		雑工	式	1	124	付替道路、構造物撤去
	橋梁費				5,828	
		100m以上	m			
		100m未満	m	229	5,828	鋼橋4橋
	トンネル費					
		NATM	m			
		シールド	m			
	IC・JCT費					
		IC	箇所			
		JCT	箇所			
	舗装費				447	
		車道舗装	m ²	38,000	412	
		歩道舗装	m ²	10,300	35	
	付帯施設費				170	
		交通管理施設工	式	1	170	横断歩道橋、防護柵工
		遮音壁	m			
②用地及補償費					1,180	
	用地費	m ²	36,561	580		
		宅地	m ²	11,123	297	
		田畑	m ²	22,362	265	
		山林・原野	m ²	1,224	5	
		その他	m ²	1,852	13	
	補償費	式	1	600		
③間接経費		式	1	517	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費等	
全体事業費				10,145		

【単価等について】

- 工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用
- 用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

残事業費内訳

参考様式 1

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道201号	香春拡幅	4	2.1km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					4,153	
	改良費				1,334	
		土工	m ³	57,310	563	切土(31,860m ³)、盛土(25,450m ³)
		軟弱地盤改良工	m ³			
		法面工	m ²	188	0.5	種子吹付、種子散布
		擁壁工	式	1	534	ブロック積、大型ブロック積、L型擁壁
		管渠工	m	14	1	
		函渠工	m	54	13	
		排水工	m	2,280	83	
		中央分離帯工	m	2,990	96	
		雑工	式	1	43	付替道路、構造物撤去
	橋梁費				2,395	
		100m以上	m			
		100m未満	m	229	2,395	鋼橋4橋
	トンネル費					
		NATM	m			
		シールド	m			
	IC・JCT費					
		IC	箇所			
		JCT	箇所			
	舗装費				348	
		車道舗装	m ²	29,610	321	
		歩道舗装	m ²	8,000	27	
	付帯施設費				76	
		交通管理施設工	式	1	76	防護柵工
		遮音壁	m			
②用地及補償費					1	
	用地費			m ²		
		宅地	m ²			
		田畑	m ²			
		山林・原野	m ²			
		その他	m ²			
	補償費	式	1		1	
③間接経費			式	1	223	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費等
全体事業費					4,377	

【単価等について】

- 工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用
- 用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

全事業における維持管理費の内訳

参考様式 2

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道201号	香春拡幅	4	2.1km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	2.1	500	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	1,900	路面補修、構造物の点検・補修等
その他	式			
維持管理費合計			2,400	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。

残事業における維持管理費の内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道201号	香春拡幅	4	2.1km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	2.1	500	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	1,900	路面補修、構造物の点検・補修等
その他	式			
維持管理費合計			2,400	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。

参考様式 3

項目	前回評価 H29年度				今回評価 R3年度				主な変動要因 (現在価値)
事業概要	延長 2.1 km 車線数 4 車線				延長 2.1 km 車線数 4 車線				—
事業費	61 億円				101 億円				—
事業全体	B/C	1.1			B/C	1.02			—
	B 便 益	68 億円	走行時間 短縮便益	52億円	B 便 益	107億円	走行時間 短縮便益	87億円	・原単位及び将来交通量需要推計の見直し ・基準年の変更 (H29⇒R3) ・総走行台キロの年次別伸び率の見直し ・事業期間の変更 (H35⇒R7)
			走行経費 減少便益	15億円			走行経費 減少便益	19億円	
			交通事故 減少便益	0.88億円			交通事故 減少便益	1.1億円	
	C 費 用	59 億円	事業費	54億円	C 費 用	105億円	事業費	97億円	・事業費の変更による増 ・基準年の変更 (H29⇒R3) ・維持管理単価の変更による増
			維持管理費	5.2億円			維持管理費	8.0億円	
残事業	B/C	1.8			B/C	2.4			—
	B 便 益	68 億円	走行時間 短縮便益	52億円	B 便 益	107億円	走行時間 短縮便益	87億円	・原単位及び将来交通量需要推計の見直し ・基準年の変更 (H29⇒R3) ・総走行台キロの年次別伸び率の見直し ・事業期間の変更 (H35⇒R7)
			走行経費 減少便益	15億円			走行経費 減少便益	19億円	
			交通事故 減少便益	0.88億円			交通事故 減少便益	1.1億円	
	C 費 用	37 億円	事業費	32億円	C 費 用	44億円	事業費	36億円	・事業費の変更による増 ・基準年の変更 (H29⇒R3) ・維持管理単価の変更による増
			維持管理費	5.2億円			維持管理費	8.0億円	